

同期の仕方ですぐにiPadを使いこなせるかが変わる

iTunesとの同期を賢くこなしてワンランクアップ

iPadは初回起動時からiTunesと同期させなくてはならない。もちろんその後もiTunesとうまく付き合っていくことでiPadはより整然と、使いやすく保てる。同期の仕組みを理解して、上手に賢くiTunesとの関係を築いていこう。

同期を使いこなせばiPadもさらに活用できる

パソコンとiPadをつなぐ母艦それが『iTunes』の役割

iPad単体でもiTunesとApp Storeからダウンロードは可能だが、ダウンロードした数が増えてくると管理も大変になってくる。また、連絡先やカレンダーなどを頻繁に利用しているのなら、パソコンと同期させることでさらに便利になる。『iTunes』を使うこと

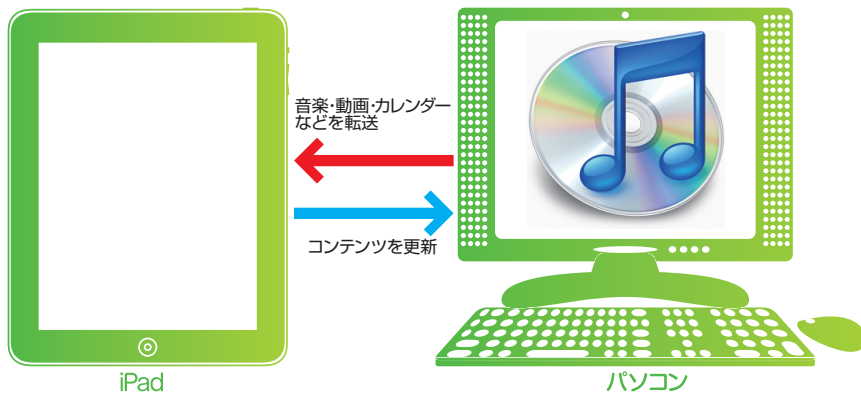
で音楽や動画や写真の転送やアプリの管理、それに連絡先やカレンダーの同期が行える。同期は自動同期の他、手動同期もできる。連絡先やカレンダーだけなら、62～63ページで紹介している『MobileMe』でも行えるが、音楽や動画や写真の転送などは、基本的に『iTunes』からしか行えない。まさに『iTunes』はiPadとパソコンをつなぐ母艦の役割を担っている。

アプリも音楽も管理する



iPadの管理は基本的にiTunesを通して行うことになる。すべてはココから。

同期の概念を理解すれば設定も簡単

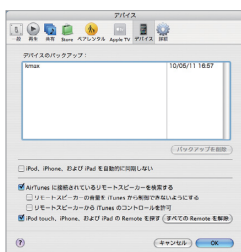


「同期」とはiPadに『iTunes』から

- 音楽・動画・アプリなどを転送する
- 追加情報を『iTunes』に書き加え、バックアップを取る

接続する前に設定しておこう

1 自動同期の設定にする



①「環境設定」の「デバイス」タブの「iPad、iPhone、およびiPadを自動的に同期しない」という項目にチェックを入れないと接続しただけで同期が始まってしまう。

2 『iTunes』が起動し同期される



②接続だけで自動的に同期が始まってしまうと、iPadの中しかないコンテンツが削除されそうになるので注意が必要。別の作業が必要ときは自動同期を切ろう。

サイズを下げて同期する

ビットレートの高い曲はサイズも大きくなってしまいますので、音質にあまり影響しない範囲で容量を上げて転送・同期をする設定がある。容量に余裕がない場合はチェックを入れて曲数を優先しておこう。

